

こどもの詩・レクニール応募作品資料

《小学校高学年》

お母さんの笑顔をみたい

一新小学校

五年 清田 結夢

夕方学校から帰ってきたら

元気におかえりなさいと言ってくれるのに

今日は返事が返ってこない

中に入ってみると

お母さんがソファーに寝込んでいた

熱が出たと弱った声で言ってきた

私は心がざわざわした

お母さんがマスクをして

料理をしている

私は何も言わず

洗濯物をたたむ

辛そうなお母さんに

私は満面の笑顔で

洗濯物たたくておいたよと言った

今日一番の笑顔で

ありがとうと言ってくれた

お母さんの役にたてたかな

(第三十五回入賞作品)

うちのおねぼうお母さん

隈府小学校

五年 大村 梨紗

母はつかれているのか

すぐねる

どこにでもねる

「お母さん」

と言っても起きない

「おかーさん」

とほほをたたいても起きない

もーなんで起きないの

でも幸せそうな顔

まるでねーさんみたい

いつもお仕事

ありがとうね

(第二十九回入賞作品)

大きないびき ありがとう

松橋小学校

五年 村上 太陽

毎日大きいお父さんのいびき

家がゆれるほど大きい

お父さんの仕事は

けいさつ官

たまには

二十四時間

ずっつと

はたらいている

お父さんが

家にかえってくると

ベッドの方にいく

それからいびきがきこえる

いびきはうるさいけれど

それはいっしょうけんめいはたらいた

しょうごだ

家族のためにいっしょうけんめいに

はたらくお父さんの大きいいびき

いつでもゆるしてあげるよ

(第二十五回入賞作品)

ごはんがうまい

白山小学校

五年 福満 健人

お母さんが作るごはんは

全部うまい

昨日は、もずくのスープがうまかった

運動会の時の おべん当もうまかった

食べすぎて、あまり走れなかった

「ごはんがうまい

ぼくが悪い事をしておこられた日の

「ごはんもうまい

本当は

「食べない！」

と言っちゃりたいけど

いつも食べてしまう

今日も「ごはんがうまい

(第三十回入賞作品)

お母さんのトリセツ

宇土花園小学校

六年 吉田 梓

「バカッ」

「くっせっ。」

毎週 聞こえてくる

お父さんの大きな独り言

「おいっ。だれだ。プー入れたやっはっはー。」

「お姉ちゃんじゃないとー。」

「私じゃないしー。」

最近お父さんは

「コミの分別にはまっている

「はい。はい。」

と、コミを出す準備をしてくれるのは

お母さん

そして最後に お母さんから

「コミぶくろのバトンを

うけとる お父さん

毎日

毎日

「コミ出しから会話が

生まれる

「コミってー」

「コミぶくろもーまいだけど

その一つから

後藤家には

幸せがうまれる

(第三十一回入賞作品)

熊本市立城東小学校

六年 後藤 文

月曜日の朝

「今日は何の日だー。燃える「コミの日かー。」
かがみながら
「コミ出しカレンダーを
見ているお父さん

私もだよ お父さん

古町小学校

六年 豊永 りな

運動会の親子競技

お父さんは私に

思いを叫ぼうと

決めていたらしい

お父さん

朝から念入りに鏡を見る

「だいじょうぶかな。だいじょうぶかな。」

お母さんはわらっていた

親子競技開始

次の人が終われば私とお父さんの番

お父さんが叫んだ

「生まれてきてくれてありがとう。

愛してるよー。」

死ぬほど恥ずかしいよ

ほおがカツと熱くなった

お父さんは私をおんぶして

ゴールまで走った

ひさしぶりのお父さんの背中に

私も小さく叫んだ

「私もだよ、

お父さん。」

お父さん。」

お父さん。」

母の努力と笑顔のおかげで

大豊小学校

六年 西村 桃那

田植えをしている

お母さん

それをみて

私もしてみたくなった

私が田植え機にのるとき

お母さんもいっしょにのっていてくれた

うしろに立っていてくれた

私が運転すると

ガタガタになってしまった

私があわてていると

母が後ろから手をのばして

まっすぐに植えられるようにしてくれた

私はあわてていたのに

お母さんは笑っていた

うちのお米はおいしい

今年もきつとおいしい

母の努力と

笑顔のおかげで

(第三十六回入賞作品)

(第三十四回入賞作品)

